

下飯地域まちづくり懇話会 進捗状況一覧

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況 (H17年度末)	進捗状況 (H18年度末)	進捗状況 (H19年度末)	進捗状況 (H20年度末)	進捗状況 (H21年度末)	進捗状況 (H22年度末)	地域振興計画	H18当初予算	H19当初予算	H20当初予算	H21当初予算	H22当初予算	H23当初予算	事業完成分		
H17	15	鹿島	カンパチの中間育成の研究及び養殖業者の誘致、川内市場への優先的な流通	林務水産課	関係機関や漁協とも協議を重ね、鯨島の養殖業振興のための方策を検討したい。また、水産物卸売市場の川内港用地への移転構想があり、鯨の魚介類の販路拡大に繋がるよう検討することとしている。	・蘭牟田漁港の浅海漁場は、平成16年度～18年度で県が防波堤の整備を行い、市も平成17年度にイクス係留ブロックの整備を実施した。養殖事業については、平成17年4月から長島の企業が鯨島漁協の組合員となって、浅海漁場で養殖業を営んでいる。漁協からの聞き取りでは、魚価の変動や輸送コストの問題から慎重な対応が求められることと、養殖業の振興を図っていくためには、今後、採算がとれる複数の魚種養殖について検討しなければならないと考えている。 ・平成17年10月蘭牟田川内鯨お魚まつりが川内港用地で開催され、鯨島の魚介類が沢山販売された。平成18年度から水産物の消費拡大を図るため、月1回の朝市開催も計画されており、本年度から水産物卸売市場の基本構想を策定するため、関係者の聞き取りを実施することとしている。															
H17	16	鹿島	蘭牟田瀬戸架橋の早期実現	建設政策課	あらゆる機会を捉えて要望等の取り組みを行っている。地域住民の長年の念願であることから、実現に向け市民一体となって取り組みたい。	3月31日事業決定。平成18年度より本格的に調査開始。		調査・測量・設計中 (H19年度末から用地買収中) 今後も引き続き要望していきたい。	平成20年度に工事着手。今後も引き続き早期整備を要望していきたい。												
H17	17	鹿島	鯨島航路の航路変更はあるのか	企業・港振興課	今後の本市及び鯨島地区の発展を考えると、川内港への寄航は観光・教育・医療・産業振興の面から利便性はさらに向上するものと期待される。これまで以上に利用しやすい鯨島航路によるよう取り組みたい。	利用しやすい鯨島航路の整備をめざして、平成18年度に利用者のニーズの把握や分析を行い、今後の鯨島航路の検討調査を行うこととしている。		本市としては、鯨島市民の生活の足の確保、鯨島振興のため老朽化した高速船の代替船を市が建造し、鯨島商船に貸し出し、川内鯨島間に就航できないか検討している。しかしながら、川内鯨島航路の実現については、「鯨島市民の理解」が最重要課題であり、市の考えを直接鯨島市民に説明すること等を目的として意見交換会等を実施したところである。	平成19年度から実施している意見交換会等により市の構想について大半の鯨島市民の理解は得られているが、一部地域で強い反対の声もある状況である。引き続き意見交換を実施することにも、実現の前提である「国庫補助航路の存続」を含め関係機関との調整が続けたい。	平成20年の説明会以降、川内鯨島航路実現の前提としてフェリーも含めた鯨島航路全体の維持を必要から「国庫補助航路の存続」が前提条件となった。 また国においても昨年7月に鯨島航路補助金交付要綱を改正し、全ての補助航路に関係者で組織する「航路改善協議会」を設置し、経営安定を図るための「航路改善計画」を策定することが義務付けられた。 鯨島航路においては平成22年3月に同協議会を設立し、平成22年度中に計画を策定することとしている。 川内鯨島航路については、この協議会において議論されることとなるが、市としては「新市一体感醸成」、「格差是正」を図ることを目的として、川内鯨島航路の必要性を訴えていきたいと考えている。 なお、鯨島市民に対する意見交換会については、前回から2年経過し、国の制度改正も含め、現状について説明するため4月に再度開催することとしている。											
H17	18	鹿島	携帯電話の不感地域の解消	情報政策課	ご要望の小牟田地区はNTTドコモ、auのサービスエリア内であることから、事業者へ品質改善の働きかけを行ってほしい。	事業者への品質改善の働きかけを行っている。		通信事業者による整備があるところは、新たな整備の補助対象にならないため、既存サービスエリアの品質改善の働きかけを行っている。	通信事業者により整備されているところについては、新たな整備の補助対象にならないため、既存サービスエリアの拡大、品質改善の働きかけを行っている。	通信事業者により整備されているところについては、新たな整備の補助対象にならないため、既存サービスエリアの拡大、品質改善の働きかけを行っている。											
H17	その他		蘭牟田瀬戸架橋は将来的に意味がないのでは	建設政策課	架橋により観光・教育・医療等いろいろな可能性が広がるので、マクロ的にとらえる必要であると考えている。	特に回答なし		—													
H18	1①	子岳	フェリーに際し乗り継ぎバスがない。シーホークは料金の負担が大きい。シーホークをフェリー料金同等額まで値下げできないか	商工振興課	バスや人員が間に合わない。原油高騰で経営が厳しく致し方なく値上げし、国の補助は受けられず値下げは困難。70歳以上に公共交通利用補助券を交付		最近の原油高騰と利用客の減少により、鯨島商船の経営状態は非常に厳しい状態となっている。平成18年9月1日からフェリーについては/バンカーチャージとして運賃の値上げを行ったところである。しかし、高速船については市からの要望により運賃を据え置いていたところである。現在も経営状態が非常に厳しいので御理解をいただきたい														
H18	1②	子岳	シーホークは、料金が高いうえに乗船時間が長く、フェリーより遅く串木野港に到着する。効率的な運航体制に変更すべき	商工振興課	フェリーの直行便より各港寄港のシーホークが20分長い。各港の利用状況・利用者の意見等調査し、効率的な運行体制へと鯨島商船と協議したい		現在のフェリーニューこしきの導入時に旧4村で検討された運行体制であり、簡単には変更することは出来ない。今後の新船導入も含め検討は続けていく														
H18	1③	子岳	繁盛期の整理券は下飯の割り当てが少ない。発行枚数を鯨島商船は検討するべき	商工振興課	定員オーバー防止のため利用率から算出した枚数を割り当てているとのこと。利用者の立場に立ったシステムの構築が出来ないか鯨島商船と協議したい		利用率から算出した枚数を割り当てているとのことである。引き続き割り当て枚数の検討など要望は続けていく														
H18	1④	子岳	鯨島では高校進学時に島を離れるため、親の負担と子供たちの不安は大きい。週末気軽に帰れるよう割引率が高くてほしい	商工振興課	高校生の鯨島商船の利用は学校長発行の証明書の提示で2割引が可能である		回答の通り														
H18	2	子岳	高校進学時の離島で子どもを持つ家庭は苦勞する。このため少子化と人口流出になる。高校在学中の住居や生活費に対する補助を	学校教育課	奨学金制度により希望者に最高月額30,000円の貸付等がある。特別奨学金は月5,000円が支給され返済の必要はない。鯨島地域からの申し込みはない		奨学金制度の活用と併せて、平成19年度においては、鯨島地区市内高校入学祝金事業として、1人当たり10万円を支給するよう予算措置している	奨学金制度の活用と併せて、平成20年度においても、鯨島地区市内高校入学祝金事業として、1人当たり10万円を支給するよう予算措置している。													
H18	3	手打	台風の常襲地で避難施設は必要不可欠。避難所は建設後27年が過ぎ安心して避難できない。早急に今ある施設を補強整備を	防災安全課	へき地保健福祉館は豪雨の場合の避難所としており整備する計画はない。台風は予想が立てられることから、安全な生涯学習センター等へ早めに避難を		これまでへき地保健福祉館は施設が古く、台風時には使用できない状況であったが、平成19年度に強化ガラスに取り替えることで、整備を進めている	平成19年度において、強化ガラスへの取り替え工事を実施し、施設の補強整備を図ったところである。	へき地保健福祉館については、施設主管課により強化ガラスに取り替えてあります。他の施設についても、施設主管課により問題箇所の修繕等について検討してまいります。												
H18	4	手打	経済的負担の軽減及び島内への観光客増大を図るうえからも鯨島商船及び関係機関に対し運賃の格差の是正を望む	商工振興課	原油高騰の煽りを受け経営が厳しく、会社も致し方なく値上げを9月1日から行っている。赤字となっても国の補助は受けられず料金の値下げは困難		最近の原油高騰と利用客の減少により、鯨島商船の経営状態は非常に厳しい状態となっている。平成18年9月1日からフェリーについては/バンカーチャージとして運賃の値上げを行ったところである。しかし、高速船については市からの要望により運賃を据え置いていたところである。現在も経営状態が非常に厳しいので御理解をいただきたい														
H18	5	西山	沖防波堤の一部が前後に比べ低く、台風や冬季の波浪時は波が越えて危険である。漁船が安心して係留できるように整備を	林務水産課	基準が変わる度の整備は整備計画及び財政上の問題から難しい。安全・安心の漁港整備を目指しており、台風や冬場の季節風の越波を見つめたい		台風時の状況等を確認し対応等について検討することとしている	・19年度には大型台風の当地への上陸は大きく確認ができなかったため、引き続き状況等の確認を続けている。	平成20年度も引き続き調査している。	平成21年度も引き続き調査している。											
H18	6	西山	下鯨島の東側は県道手打蘭牟田港線が通っているが、西側に至っては手打集落から片野浦集落まで、自衛隊基地周辺一部でとぎれている。早急に西回りに県道を整備してほしい	建設政策課	当面東側ルートを最優先で整備する方針であり、現時点での西側の整備計画はないとのこと。全線改良は事業費が非常に大きくなり財政的にも難しいが、旧下鯨村時代から急カーブ等の拡幅等、危険箇所の改修を続けており、当面は法面崩土等危険箇所の整備、側溝整備や退避所等の設置等を対応する		回答の通り	—	現在、蘭牟田瀬戸架橋を含み、鯨島縦貫道を中心に事業を進めている。今後これらの事業進捗を見ながら検討したいとのこと。	現在、蘭牟田瀬戸架橋を含み、鯨島縦貫道を中心に事業を進めている。今後これらの事業進捗を見ながら検討したいとのこと。											

下飯地域まちづくり懇話会 進捗状況一覧

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況 (H17年度末)	進捗状況 (H18年度末)	進捗状況 (H19年度末)	進捗状況 (H20年度末)	進捗状況 (H21年度末)	進捗状況 (H22年度末)	進捗状況 (H22年度末)	地域振興計画	H18当初予算	H19当初予算	H20当初予算	H21当初予算	H22当初予算	H23当初予算	事業完成分		
H18	7	青瀬	瀬尾観音三滝公園の遊歩道に設置してある8個の灯籠の根元が腐食し、配線がむき出しになり、灯らないものもある。早急に改良を	観光課	灯籠の改修も検討するが地区コミュニティ協議会や指定管理者とも連携し、灯籠に代わりちょうちんを吊り下げながらの優雅な景観づくりを検討したい		平成19年度に改修工事予定	改修工事完了													○	
H18	7	青瀬	電気が来ないことにはちょうちんも点かないのでは。2番、3番目の滝まで見に来るが、1番目の滝まで来ないので、道の整備を	観光課	電気もきめて支所と協議して検討したい。夏の間だけコードを延長してどうかと話をしている。滝についても知名度の問題だと思うが、検討したい		道の整備は検討課題	観音三滝周辺の整備構想について、地域の方々に集まってもらい意見の集約を図った。今後、整備の手法を模索する。	平成19年度、藍島観光振興のため、「瀬尾観音三滝公園整備基本計画」を地元代表による検討会により策定したところである。この基本計画に基づき同公園を防衛施設周辺整備事業として事業化できないが、これまで防衛省と協議してきたが、レーダーサイトの更新工事が完了していないことなどから、現時点では採択は難しいとのことである。したがって、今後も引き続き防衛省と協議を進めるとともに、他の財源も視野に入れながら事業化を検討していく。		薩摩川内市総合計画（平成22年～24年度期）に「瀬尾観音三滝公園総合整備事業」を記載しているが、現状では下飯地区への入り込み客数や財源の確保などの課題もあり、整備については今後十分検討する必要がある。	平成21年度末に同じ										○
H18	8	青瀬	防火水槽は青瀬に2カ所瀬尾に1カ所があるが十分な消防水利が確保できず、万全な対応は不可能と思われる。早急に防火水槽の設置を	消防局	設置要望地は、青瀬の宝海寺付近、瀬尾の瀬尾寺付近と聞いているが、市では年に4基建設しており、周囲の住宅の状況、水利の状況等を考慮し優先順位をつけている。藍島で国の基準の30パーセントの規模のものの特定事業ふるさとおこし振興事業を適用し毎年1基ずつできないか協議している		19年度に長浜地区に「特定難島ふるさとおこし事業」30トン水槽を建設する予定である。20年度以降についても支所と協議しながら防火貯水槽を整備していく予定	平成19年度長浜地区に30トン水槽を設置済である。	平成21年度 青瀬地域に防火水槽1基建設予定	平成21年度青瀬地区に防火水槽設置済み瀬尾地区については、設置用地の確保が困難であるため、自然水利での対応していただきたい。											○	
H18	9	長浜	城の頭地区と芦浜地区の中央部分に防火水槽の設置を要望する	消防局																	○	
H18	10	長浜	藍島敬老園の上方の急傾斜地域では、亀裂が入り崩壊の危険があり、シートで補強しています。災害を事前に防止するため、早期工をお願いします	林務水産課	県営県単治山事業で法面保護工事を予定していたが一般公共治山事業（国庫補助）に変更し、本年度の予算は、崩壊した2ヶ所の不安定土砂の除去と、法面を応急的に保護するとしている。平成19年度からの国庫補助事業による治山事業の準備として、関係地権者の承諾書を取り纏めている		県営事業によりH18から事業着手しており、H19に完了予定である	H18に県単事業で応急処理し、H19から本格的に公共治山事業で着手している。H21に完成予定である。	H18に県単事業で応急処理し、H19から本格的に公共治山事業で着手している。H22に完成予定である。	H18に県単事業で応急処理し、H19から本格的に公共治山事業で着手している。H22に完成予定である。	平成22年度事業完了。										○	
H18	11	内川内	近年救急車で運ばれたり、足腰が弱い思うように歩けない人が増えている。坂や階段等が多い立地条件から人命救助には不利であり、タンカで運ぶにも道が狭く時間がかかる。ストレッチャー等を使用できるような集落道の整備をぜひお願いしたい	建設維持課	急勾配の階段を平にすると勾配がきつくなりストレッチャー等の移動が危険であるとの指摘がある。地区コミュニティ協議会や消防局等の関係者と現地調査し、現在の集落道を活かす形で、老朽化した箇所の補修等の整備を検討する。ストレッチャー等を使用できるような集落道の整備は検討課題としたい		検討中です	19年度に内川内集落の現況測量を実施し、消防、地区コミを含めて協議していく予定です。	20年度で測量・設計を実施した。21年度から工事に着手する予定である。	集落道の整備は3路線計画しており、21年度で1路線整備した。残りは、22年度と23年度で整備する予定である。	22年度に一部集落道の整備を実施。23年度についても継続して整備を実施することとしている。										○	
H18	12	内川内	ダムからの排水が梅雨や台風時に溢れ流れ出しがけ崩れ等の被害を引き起こしている。側溝を水の流れに添った向きに変更を	建設維持課	流れる方向を変えるための溜池の鋼製蓋から水が吹き出し市道及び里道に流れている。鋼製蓋をコンクリート蓋に取り替え、その後の状況を見て対応する		今年度現地調査を実施しました。これを踏まえ19年度に実施する予定です（工事金額は、未定です）	19年度末に発注し現在施工中です	20年度で全て完了した。													○
H18	12	内川内	コンクリートで蓋をしていただくのはありがたいが、この側溝に落ち葉などが流れてくるので、取り外し可能な蓋にして欲しい	建設維持課	コンクリート蓋に変えたとき、落ち葉が詰まったのが見えにくくなる。ゴミを止めるスクリーンを上流に作るなど工夫していきたい		今年度現地調査を実施しました。これを踏まえ19年度に実施する予定です（工事金額は、未定です）	19年度末に発注し現在施工中です	20年度で全て完了した。													○
H18	13	鹿島	空缶、ビン類などは洗って出せないもので燃えないゴミの時に出すと処理業者が収集せずに残る。海岸等に流れ着いたプラスチック類はどう処分するのか。雑木や雑草の処分地がなく地区全体で作業する場合は大変な量になるので処分地を指定するなど良い策はないか	環境課	県へ海岸の環境保全への措置を県市長会で要請したが明確な方針は示されていない。海岸漂着ごみはやわらかいプラスチックは「燃やせるごみ」へ、浮球のような硬いプラスチックは「燃やせないごみ」で排出を。雑木や雑草はクリーンセンターへの搬入を。雑木は長さ30cm以内、直径10cm以内で		海岸漂着ごみについては、海岸を管理する海岸管理者に相談してください。処理については回答概要のとおりです	海岸漂着ごみについては、海岸を管理する海岸管理者に相談してください。処理については回答概要のとおりです	〃													○
H18	14	鹿島	平成16年の台風21号、平成17年の台風14号の接近に伴い大潮と満潮が重なった時間帯に支所付近の住宅が床上及び床下浸水の被害を受けた。冠水の被害を最小限に防げる対策（例えば土のうの準備・配備・消防団等との連携）に万全を期していただきたい	防災安全課	藍地域各支所に土のう袋を1,000枚配付し両支所には2,000枚備蓄している。砂詰した土のう袋を各箇所に配備し集中豪雨時の災害対策に万全を期したい		アルファ一米、ビニールシート、土のう袋は毎年購入し、備蓄している	ビニールシート、土のう袋は毎年購入し、備蓄している。また、消防局で土入り土のうを100袋を鹿島支所に備蓄している。	現在、消防局において、土入り土のうを備蓄しております。鹿島地域は、鹿島支所に270袋あります。また土のう袋を約2,000袋備蓄してありますので、支所、消防団等と連携して対応していきます。	現在、消防局において、土入り土のうを備蓄しております。鹿島地域は、鹿島支所に270袋あります。また土のう袋を約2,700袋備蓄してありますので、支所、消防団等と連携して対応していきます。											○	
H18				建設維持課	冠水対策で内水解析業務を発注。蘭牟田地区には排水施設がありただけだけかかせばいいが、排水路が機能しているかを検討し方針が示せるよう検討中		平成19年度よりバイパス水路の工事を計画している	水路整備工事を実施した。	19年度に引き続き水路整備工事を実施し完了した。													○
H18	15	鹿島	出合いの場を藍島振興協議会等で企画し実施できないか、またこのような出合いの場に数多く参加できるような助成措置ができないか	企画政策課	それぞれの地域で特色あるやり方がある。出合いの企画・実施は、行政主導でなく地元漁業青年部や商工会青年部等が中心となり真剣に取り組む必要がある		答弁のとおり、地元が中心となって、取り組んで頂きたい	回答の必要なし														○
H18	16	鹿島	岩崎グループの廃止路線が発表され、串木野新港関係の5路線が入っており、島民の不安が募る。いずれも鹿児島市内・川内方面・串木野駅から藍島航路へのアクセスとして島民が利用している。関係のいちき串木野市と連携提携し代替バス運行の検討を	商工振興課	串木野新港関係システムは、鹿児島市、鹿児島空港方面には、他の路線バス等に集換が必要であるが、藍島商船利用者の串木野新港からの移動手段は確保できると思われる。現在、藍島航路のダイヤの全てには接続していないので、今回の見直しで全ての時間で接続を行い、今以上の利便性の向上に努める		昨年の11月から串木野新港と川内駅の間に南面交通線のご協力により、フェリー便にあわせシャトルバスの運行を開始した。また、高速船・フェリーと串木野駅には林田バスが運行を始めている。以前より便数は増えている															○
H18	17	鹿島	フェリーの下り便が悪天候により鹿島港に着岸できない事態が多く発生している。この場合、長浜港で路線バスを40分程度待ち定期バスで鹿島町に戻るようになる。港の静穏度を保つための抜本改修について早期実現の要請とバス代負担の軽減を要する	林務水産課	鹿島港の岸壁は静穏度確保の防波堤や浚渫の整備並びに護岸用地等の整備が実施され平成17年度末の進捗率は34%。早期完成に向けた要望を実施		県に対して要望をおこなった	・県が実施する蘭牟田漁港広域漁港整備事業計画に基づき事業の実行が行われている。平成19年度末現在進捗率59.6%である。	20年度末 66.6パーセント 平成23年完成予定である。	21年度末 77.3パーセント 平成23年完成予定である。	22年度末 81.7パーセント 平成23年度中に事業見直しの予定である。											○
H18				商工振興課	バス代の直接負担は、公営企業会計に基づき運行されており困難だが、70歳以上の本市住民に対し公共交通利用補助券を交付している		市のバス代の直接負担は、公営企業会計に基づき運行されており困難である															○
H18	その他		市道・林道の危機管理について。下飯の林道は利用もできない。お金がないといわれるが、地震があればそれではすまない	林務水産課	市民の生活道路であるので、整備しなければならない		生活道路として利用頻度の高い路線から整備に着手している	草払い委託については、年1回であるが利用頻度の高い路線から随時実施している。維持工事等については、パトロール等で箇所の確認し、予算額を考慮しながら工事を発注している。	草払い委託については、利用頻度の高い路線から随時実施している。維持工事等については、パトロール等で箇所の確認し、予算額を考慮しながら工事を発注している。	草払い委託については、利用頻度の高い路線から随時実施している。維持工事等については、パトロール等で箇所の確認し、予算額を考慮しながら工事を発注している。	平成21年度回答と同											○
H18	その他		ゴミ処理の職員が体を悪くした。職員の健康管理についても伺いたい	総務課	お話をあったゴミ処理の職員について、公務災害であればしるべき対応を取る。職員の健康管理は健康診断、公害予防など十分気をつけている		職員の健康管理については、定期健康診断を全職員対象として毎年実施しており、併せて人間ドック受診の勧奨及び助成も実施している。また、定期的に開催される安全衛生委員会のなかで作業場等を巡回し、作業環境、作業方法を確認し現場従事者の健康障害の防止及び健康の保持増進に努めている															○

下飯地域まちづくり懇話会 進捗状況一覧

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況 (H17年度末)	進捗状況 (H18年度末)	進捗状況 (H19年度末)	進捗状況 (H20年度末)	進捗状況 (H21年度末)	進捗状況 (H22年度末)	進捗状況 (H22年度末)	H18当初予算	H19当初予算	H20当初予算	H21当初予算	H22当初予算	H23当初予算	事業完成分			
H18	その他		下飯は高レベル放射性廃棄物の適地として挙げられたが、受け入れないでいただきたい	企画政策課	原子力発電所から出る使用済み燃料は、95%は再び燃料になり残りはガラスで固めた地下300mに捨てることになるが、飯島は宝の島なので要望しない		答弁のとおり、要望する予定はない	回答の必要なし												○		
H19	1	手打	農林道の整備等については、道路の雑草木の伐開など行政で行っているが、倒溝については、土砂崩れ等によりふさがれ、機能していない部分が多く見られ、手付かすのみである。住民の安全を守るうえからも、人家近くの部分だけでも、早急な倒溝の清掃をお願いしたい。また、溜り等の増設も検討していただきたい。	林務水産課 耕地課	7月3日から4日の豪雨により法面の崩壊で倒溝をふさいでいる箇所が多発発生している。国の災害査定受検のために取り除きが遅れていたが、今後、取り除き作業を実施する。除草作業も今後業者に依頼して実施していくので、その作業の中で、土砂等で倒溝をふさいでいる箇所については取り除いていく。また、溜り等の増設については、関係する路線の現地調査を行い、人家等が被災することのないように対処する。			平成19年度の豪雨災害に伴う災害復旧工事は、全て完成いたしました。倒溝清掃も併せて実施済みです。今後も、農林道の維持管理については、適切に実施してまいります。	パトロール等で箇所を確認し、側溝浚渫を実施している。	パトロール等で箇所を確認し、側溝浚渫を実施している。	平成21年度回答と同									○		
H19	2	手打	隣家に被害を与えている場合の利害関係については、当事者双方の民事の問題であり市役所が立ち入ることはできないところである。ただし、環境美化の推進として、土地建物等の所有者等は、土地、建物及び周辺を清潔に保たなければならないことから、所有者または管理人等を調べて改善の依頼をすることはできるため、現状を確認して対応させていただきたい。	環境課	隣家に被害を与えている場合の利害関係については、当事者双方の民事の問題であり市役所が立ち入ることはできないところである。ただし、環境美化の推進として、土地建物等の所有者等は、土地、建物及び周辺を清潔に保たなければならないことから、所有者または管理人等を調べて改善の依頼をすることはできるため、現状を確認して対応させていただきたい。			親戚等がおられる方については、随時お願いしているが、費用が伴うことから解体等は翌年度以降となる。 なお、1軒の解体に数百万の経費が掛かることから、早急に解体もできないと思われるため、今後も所有者（管理者）の方に協力ををお願いしていきたい。 (参考：H20年度は5件の解体実施済み) (参考：H20年度は5件の解体実施済み)	地権者（管理者）へ随時お願いしている状況であるが県外の地権者等へも再通知を行い今後とも所有者（管理者）の方に協力ををお願いしていきたい。 (参考：H20年度は5件の解体実施済み)	隣家に被害を与えている場合の利害関係については、当事者双方の民事の問題であり市役所が立ち入ることはできないところである。ただし、環境美化の推進として、土地建物等の所有者等は、土地、建物及び周辺を清潔に保たなければならないことから、現状を確認した上で所有者または管理人等を調べて改善の依頼をしている。											○	
H19	2	手打	少子高齢化に伴う過疎化現象により、使用不能の空き家が急増している。荒れ放題の空き家も多くなり、台風時など瓦や廃物が飛び散り、隣家に被害を与えている例もあり、また、著しく景観も損ねている。個人の財産権を侵すはならないことにはわかるが、現に他人に迷惑をかける放置廃屋に対しての対策はないものか検討をお願いしたい。	建築住宅課	空き家を含む既存建築物の維持保全については、建築基準法第8条により、所有者等が敷地、構造及び建築設備を常時適切な状態に維持するように努めることが規定されている。それによりまして、客観的に見て著しく保安上危険となる恐れがある老朽化した建築物に対しては、行政指導を行うことになる。ただし、「著しく保安上危険となる恐れがあるもの」の判断には、高度な客観性に基づいて行う必要があるため、地域の自治会や消防等の関係機関と連携を図りながら、建築物の管理者、所有者に対して適切な維持保全をお願いをすることになる。			平成19年度は、個別に議題内容に係る相談等はなかったが、今後も相談等があった場合は、関係者と連携を図りながら所有者等をお願いしていきたい。(都市計画区域外における、建築基準法に係る指導権限は県となります。)	平成20年度も、個別に議題内容に係る相談等はなかったが、今後も相談等があった場合は、関係者と連携を図りながら所有者等をお願いしていきたい。(都市計画区域外における、建築基準法に係る指導権限は県となります。)	平成21年度も、個別に議題内容に係る相談等はなかったが、今後も相談等があった場合は、関係者と連携を図りながら所有者等をお願いしていきたい。(都市計画区域外における、建築基準法に係る指導権限は県となります。)	平成22年度は、1件相隣の廃屋について相談を受け所有者へ撤去をお願いをしたところである。今後も相談等があった場合は、関係者と連携を図りながら所有者等をお願いしていきたい。(都市計画区域外における、建築基準法に係る指導権限は県となります。)	平成22年度は、1件相隣の廃屋について相談を受け所有者へ撤去をお願いをしたところである。今後も相談等があった場合は、関係者と連携を図りながら所有者等をお願いしていきたい。(都市計画区域外における、建築基準法に係る指導権限は県となります。)									○	
H19	3	子岳	子岳地区内を流れる川の多くは、木々や竹などが覆いかぶさる、土砂が溜るなどの、風水害の起こりやすい状況となっている。今年度の多雨時期にも土砂崩れが起こっており、木々や竹の抜開、土砂の取り除きなどを早急に検討してもらいたい。	建設維持課	今年度土砂崩壊が起こった箇所は県管理区間であり、現在復旧工事中である。地区内の河川を覆う木々や竹の伐開及び土砂の取り除きについては、県管理と市の管理の両区間にまたがっており、県管理区間については県へ要望し、市の管理区間については対応を検討したい。			市管理区間は平成20年度下半期に実施予定。県管理区間については引き続き要望する。	市管理区間については20年度に実施した。県管理区間については引き続き要望した。	引き続き、県管理区間については要望した。	引き続き、県管理区間については要望した。											
H19	4	青瀬	青瀬地区において、単身赴任者や未婚者などの男の一人暮らし世帯が増えています。そこで、地区コミ協会で健康増進をねらいとして、「男の料理教室」を計画しましたが、実施が思うようにはできません。それは、今のコミセンの厨房設備は、ガスコンロや調理台及び流し台が一般家庭用で小型である。早急に整備していただきたい。	コミュニティ課	地区コミュニティの生涯学習施設として、近隣の市の施設に調理室を設置してある場合を除いて、地区コミュニティセンターに学習のできる調理設備を設置しているところである。青瀬地区のコミュニティセンターにも調理室を設置してあるが、調理台等が家庭用になっており、学習用としては使い勝手の悪いものとなっているので、なるべく早い機会に学習のできるタイプを設置したいと考える。			平成20年度（2月下旬）整備予定である。	平成20年度に調理室改修工事を施工し、調理台、ガスコンロ等の取替えを行った。													○
H19	5	青瀬	青瀬地区内には、雨水や生活排水などを処理するため多数の排水路が鋪設されているが、まとまった雨が降ると、排水溝から水が道路にあふれ出ている箇所がある。出口がふさがれているためだと思われるので、調査のうえ、改善していただきたい。	建設維持課	排水溝の出口については、海岸の防波堤に排水口が設置されている。この排水口については、設置してある高さが低く、海岸に打ち寄せられた砂に埋まっており、まとまった雨が降った時は、排水が効かなくなっていた。このため、防波堤の管理者である県との協議を行い、排水口の高さを調整し、速やかに排水できるよう排水の系統及び工法を含めて検討したい。			暗渠の位置を高くし、改善を実施した。(H19)														○
H19	6	長浜	戸浜海岸は近年、海砂が侵食され、護岸の近くまで海面が迫り、少々の時化でも波浪が護岸の根元を洗い、護岸近くは石ころが丸見えになっており、満潮時には砂浜が全く無くなり、海水浴ができない状態である。安全な海水浴場の整備を要望する。長浜港の整備により、時化のときの波浪が高くなっており、災害の未然防止や海水浴客の事故防止のために波浪高を抑える施策を講じてもらいたい。	観光課	戸浜海岸には、観光客の便宜を図るため、バンガロー、シャワー室、トイレ棟、炊事棟を整備し、通年型のキャンプ場として開設している。一方、砂浜については、あくまで自然の海岸と考えており、市で監視員を配置して管理する海水浴場として開設しているものではない。また、今後も市指定の海水浴場を開設する考えはない。ただし、海砂の侵食により、遊泳ができない状況が発生しているため、海水浴を楽しむ市民及び観光客の事故防止のためにも看板等を設置し注意を喚起したい。			現在の管理を継続する。事故防止のための看板は設置していない。	平成19年度末と同じ	平成20年度末と同じ	平成21年度末と同じ											
H19	6	長浜	戸浜海岸は、海岸保全区域に指定されている。目的は、高潮、波浪、津波から人命・財産を守るため、海岸法に基づいて知事が指定した区域で県が管理を行なっているため、平成13年度、侵食防止対策について地元からの陳情に基づき、県へ要望したところである。市としては、海沿いの市道長浜戸浜線のバイパスとして、集落の裏側にあたる山側に道路新設を行い、道路使用時の安全性は確保したところである。今後も、災害の未然防止や海水浴客の安全確保のため、また、地域住民が安全で安心して生活できるよう、戸浜地域の被災防止対策を県に対して要望していきたい。	建設政策課	戸浜海岸は、海岸保全区域に指定されている。目的は、高潮、波浪、津波から人命・財産を守るため、海岸法に基づいて知事が指定した区域で県が管理を行なっているため、平成13年度、侵食防止対策について地元からの陳情に基づき、県へ要望したところである。市としては、海沿いの市道長浜戸浜線のバイパスとして、集落の裏側にあたる山側に道路新設を行い、道路使用時の安全性は確保したところである。今後も、災害の未然防止や海水浴客の安全確保のため、また、地域住民が安全で安心して生活できるよう、戸浜地域の被災防止対策を県に対して要望していきたい。			砂浜が復元しつつあり、状況を見ながら要望していきたい。	回答のとおり	回答のとおり	回答のとおり											
H19	7	長浜	新設される関半田瀬戸架橋の効果を上げるためにも、戸浜トンネルを集落付近に掘削し、長浜から海岸線を架橋で結ぶ道路を新設して頂きたい。	建設政策課	戸浜トンネルは、昭和59年建設された長さ383m、幅員7mの2車線であるが、標高約280mの山頂付近に位置しており、台風等自然災害を受けやすい状況にある。現在県において、関半田瀬戸架橋を含め飯島上飯線の建設事業が進められている他、県道手打関半田港線が手打区、長浜区で建設工事が実施されているところである。本市においては、現在事業中の早期整備促進と要望区間である「長浜～鹿島」間の早期事業化を要望しているところである。今回の要望については、壮大な構想であり、今後の検討材料とさせていただきます。			県に対し、飯島縦貫道の整備促進と関半田瀬戸架橋の建設促進を要望するともに「長浜～鹿島」間の早期整備計画と早期事業化を要望したところである。	回答のとおり	回答のとおり	回答のとおり											

下飯地域まちづくり懇話会 進捗状況一覧

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況 (H17年度末)	進捗状況 (H18年度末)	進捗状況 (H19年度末)	進捗状況 (H20年度末)	進捗状況 (H21年度末)	進捗状況 (H22年度末)	地区議員評価	H18当初予算	H19当初予算	H20当初予算	H21当初予算	H22当初予算	H23当初予算	事業完結分				
H20	2	子岳	片野浦地区の一里橋から浜田川橋への道路は、小学校が近くにあり通学路になっているが、道路が狭い上に急傾斜でカーブが多く対向車のすれ違い等で非常に危険である。また、浜田集落への幹線道路でもあり一部の大型車が通行できず、小型車への荷積み替えて通行止めになり混乱することが再三ある。そこで新設道路または現道路の拡張改善の検討をお願いしたい。	建設整備課	要望の幹線道路は、県道長浜手打巻線と接続する市道手打片野浦線であり、集落内を通過していることから家屋や宅地への影響が大きいとされている。現地の確認などを行い、部分的な拡幅で問題が解決できないか検討したい。				平成20年度測量実施、平成21年度一部工事着手予定		・未着手									○			
H20	3	西山	瀬々野浦海岸では、毎年夏に、地元の小中学生、帰省中地の地域からの海水浴場客が訪れるが海水浴後 シャワー等の設備が無くそのまま車などに乗りこまなければならない。苦情までではないが施設があれば助かるとの意見を毎年聞く。そこで、海岸の入り口にシャワーが欲しい。	観光課	市としては、甌島を重要な観光資源と考えており、海や漁業集落等を活用した体験・滞在型観光である「フルーツリズム」を強力に推進し、観光客の増加を図る考えである。また、西山小学校の水泳授業の状況は、その4割は長浜小学校プールで、6割は瀬々野浦海岸で行われていると聞いている。このことから、簡易なシャワー施設の整備について検討する。整備した場合は、維持管理を地元をお願いしたい。				瀬々野浦海岸前に簡易シャワーを設置した。維持管理については、地元をお願いした。	平成20年度末に同じ		平成21年度末に同じ										○	
H20	4	内川内	自衛隊専用道路通行止めにより、西山地区、内川内住民にとって、大変な苦労を経験した。しかも、2ヶ月に渡る長い期間だった。そこで、自衛隊に関係なく、東側に出る事のできる市道を考えて頂きたく、検討をお願いしたい。	建設整備課	自衛隊道路を通行せず長浜地区へのルートについては、市道西部2号線を経由するルートがあるが、県道に接続するまでの距離が約3倍となり、かなりの遠回り道となっている。今回、要望のあった長浜内川内線から県道長浜手打巻線へ接続する路線については、高低差が約330mあり、これを通常の道路勾配(7%程度)で計画した場合、道路延長が約5km必要となり、尾岳の急峻な山腹を周回することから法面崩壊等、防災上の問題も出てくる。このため、長期的な視点から内川内地区から東側へ向うルートについては、長浜地区へのルートのみでなく甌島方面への接続も含めて幅広く検討したい。当面は、西部2号線の危険箇所を解消するために部分拡幅等を検討したい。				関係機関と調整する。新たな新設道路は、難しいため、西部線の部分的改良する方向で検討中。		・未着手		・未着手										
H20	5	長浜	長浜地区は坂が多く道路事情が悪いため、し尿処理車は入れない所が多くある。旧下飯村時代に、し尿処理車が入れない場所の対策として、し尿吸入用パイプを設置したが、色々とトラブルがあり、現在はパイプも破損し使用されていない。衛生面からも、又地区住民が快適な生活が送れるよう、下水道施設の整備をお願いしたい。	下水道課	下水道の整備は多額の建設費と供用開始後の維持管理経費を必要とするため、地域住民にも負担をお願いしなければならない。このため、計画に当たっては下水道に対する住民の理解を得たうえで進める必要がある。手打地区では計画に先立ち、地域住民で意向調査を実施してもらったが、建設及び速やかな接続に対して80%を超える同意をいただき、着工に至っている。今後、長浜地区でも意向調査を実施していただき、職員による出前講座等を実施し理解を深めて頂いて、その結果を踏まえて財政的・技術的・実施時期等の問題を含め、どのような事業で取り組んだ方が良いか検討してまいりたい。				回答概要と同様		回答概要と同様		回答概要と同様										
H20	6	青瀬	現在、下飯地域において道路環境が改善がされている。そこで、観光拠点作り・地域のシンボル作りなどの観点から「瀬尾観音三滝公園」の整備を要望する。	観光課	平成19年度、甌島観光振興のため、「瀬尾観音三滝公園整備基本計画」を地元代表による検討会により策定したところである。この基本計画に基づき同公園を防衛施設周辺整備事業として事業化できないか、これまで防衛省と協議してきたが、レーダーサイトの更新工事が完了していないことなどから、現時点では採択は難しいとのことである。したがって、今後も引き続き防衛省と協議を進めるとともに、他の財源も視野に入れながら事業化を検討していく。				回答概要のとおり		薩摩川内市総合計画（平成22年～24年度期）に「瀬尾観音三滝公園総合整備事業」を記載しているが、現状では下飯地区への入り込み客数や財源の確保などの課題もあり、整備については今後十分検討する必要がある。		平成21年度末に同じ										
H20	7	鹿島	従来のバス路線運行を10人乗り程度のマイクロバス（コミュニティバス）等の運行に見直すことができないかどうか。	商工振興課	平成19年度の運行に要した費用は、約1億3千万円で、これに対し運賃等の収入は、約2千2百万円であり、約8千8百万円の赤字分は一般会計から赤字補填をしている状況である。したがって現行の市道営によるバス運行では、バスの小型化、低料金は難しいと考える。今後は、川内甌島航路の開港等により交流人口の増加を図りながら、本土のくるくるバスのような民間委託によるコミュニティバスによる低料金を検討していく。いずれにしても、利用者増につなげる対策が課題である。そこで、別の方法として、例えば市の方でワゴン車を準備しまして、地区コミュニティ協議会に無償で貸与をさせていただいて、地区コミの方で無料運行するといった手法も考えられるのではないかと考えている。このような方法を甌島地域の地区コミの方々とぜひ一緒に研究をさせていただきたい。				市営バス（自動車運送事業）は、甌島地区の市民生活に不可欠な公共交通機関であるとして十分認識をしている。平成19年度の運行に要した費用は、約1億3千万円、これに対し運賃等の収入は、約2千2百万円であり、約8千8百万円の赤字分は一般会計から赤字補填をしているという状況である。このような経営状況の中、利用者の利便性向上や経営安定化のために、甌島における新たな公共交通体系の構築を研究するため、調査事業を行う。		甌島における市営バス（薩摩川内市自動車運送事業）の経営健全化等今後の経営方針を探るため、「甌島における新たな公共交通体系構築調査」を実施した。調査結果の中にバスの小型化も提案されており、今後甌島の実情に合わせたバスの導入を図っていきたい。なお、本年度上飯に小型バス（15人乗り）1台を導入した。		○注）20年度補正予算（臨時交付金）										
H20	8	鹿島	地区コミュニティ活性化事業補助金（18年度から21年度までの期限付き事業）は地域の活性化のために有効な補助事業であると認識しているが、原則2回までとなっており、鹿島地区コミュニティ協議会としては既に2回（18年度と19年度）実施済みであることから活用できない現状である。本年度は地区コミからの要望が少なく、再公募するなど選定委員会を2回開催しているが、21年度は要望分について原則2回までを撤廃してやる気のある地区コミに対して有効活用を図ることができないかどうか。また、21年度までの期限付きを延長することはできないかどうか。	コミュニティ課	地区コミュニティ活性化補助金は、事業を実施することにより、地区の活性化に繋がりを、かつ、継続的な成果を期待できるものに対して補助をしている。夏祭りや花いっぱい運動など、これまでの事業に付加価値をつけるもの、また、地区の特性や資源を活かして新規に事業化するものため、事業に係る消耗品や備品等を整備するための補助金を出している。事業期間が18年度から21年度までの4年間であり各地区2事業まで（1回につき20万円まで、2回で最高40万円）を想定している。20年度までにほとんどの地区において活用され、今後は、独自で事業を継続的に実施される予定である。鹿島地区においては、すでに2回活用をされており、市の提案公募型補助金ほか県等の補助金の活用を図っていただきたい。現時点では、予定どおり平成21年度までとし、事業実施も2回までとさせていただきます。				鹿島地区においては、すでに2回活用をされており、市の提案公募型補助金ほか県等の補助金の活用を図っていただきたい。現時点では、予定どおり平成21年度までとし、事業実施も2回までとさせていただきます。		補助金要領を改正して、鹿島地区コミュニティ協議会の3回目の申請を受け、補助金を交付した。												○

下飯地域まちづくり懇話会 進捗状況一覧

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況 (H17年度末)	進捗状況 (H18年度末)	進捗状況 (H19年度末)	進捗状況 (H20年度末)	進捗状況 (H21年度末)	進捗状況 (H22年度末)	進捗状況 (H22年度末)	追加策 策立案	H18年 初予算	H19年 初予算	H20年 初予算	H21年 初予算	H22年 初予算	H23年 初予算	事業 完結分		
H22	1	鹿島	地域おこしをはじめ、地域の独特の課題を解決するためには、どうしても核となる資金が必要である。この資金を有効に活用しながら活動することによって強いては数倍・10数倍の経済の波及効果を生み出し、また、若者の定住を促進することにつながると思われるので、地域活性化のための地域振興基金の創設をよろしく願いたい。	財政課	今年度の基金の全体見直しの中で、この基金を一元化、一本化して市民の方々の幅広いご要望、ニーズに対応できないか、現在検討しているところである。全市民活動を支援するための基金については検討中ではあるが、この基金を設けずしないにかかわらず、提案公募型補助金、地区コミュニティ活性化事業補助金、その他既存の補助金を継続し、場合によっては必要な改善・拡充を行いながら、地域の皆さんの活動を引き続き支えて参りたい。							H22年度中に行った基金の見直しにより、「市民活動支援基金」を設置し、H23年度から市民活動を支援する事業に活用していくこととした。								○	○	
H22	2	手打	農産物加工センターの2階部分を「郷土料理研究施設」として改造していただければ、地元で自生する山菜(ツツブキ等)や地元農産物を活用した料理研究をさらに進められるとともに、改造することにより屋敷施設としても活用出来ると思われる。	農政課	農産物加工センターについては、国県の補助事業で建設されているため、用途を限定されている。食事を提供する上で地区コミュニティセンターを改造すれば、何とか上手く使えるのではないかと御提案したい。								農産物加工センターについては、補助事業で建設されているため、用途を限定されています。他施設(コミセン等)の活用について、ご協議いただきたいと思います。									
H22	3	子岳	子岳地区(片野浦海岸線)は、鹿の子百合や野カンソウ、野菊、おこし(芝に似た草)の自生する景勝地である。しかしながら現在は、インフラ整備がされておらず、景勝地でありながら観光名所になっていない。これを生かし、観光客を呼び込むために、片野浦キャンプ場からミッチリ海岸まで、「観光用遊歩道並びに展望所」を整備してもらいたい。	観光課	素晴らしい景勝地である。安全性をある程度考慮するのであれば、例えば海から見るようなコースを設定して、来年4月に就航予定の新しい観光船「かのこ」というのを造っているのを、それを上手く活用して、鹿の子百合ですとか野カンソウを鑑賞するようなことはできないか、そういう部分も含めて勉強させていただければと思う。								回答概要のとおり									
H22	4	西山	現在未利用の旧温泉太郎(浴場)施設を改修して、瀬々野浦の良さを生かした観光拠点となる「体験型交流施設」を整備してもらいたい。	観光課	当施設の改修は、なかなか難しいと考えられる。隣にコミュニティセンターがあるので、こちらの方もコミュニティセンターの活用も含めて、活用ができないか支所も含めてコミュニティ協議会の皆様方と相談させていただけたらと思う。								回答概要のとおり									
H22	5	内川内	内川内地区には、素晴らしい景観の一番滝があるが、見えるスポットまでの道路がないので、高岩神社までの車が入れる道路と駐車場を整備していただければ、内川内の観光の名所になると思う。途中に畑もあり、生活道路として、農業振興にも大いに役立つと考える。また、神社から海岸までの遊歩道と途中に展望所を整備していただければ、海岸を利用した観光もはかられ、真砂石の美しい海岸線も楽しめる。	建設整備課	道路整備ということについては、若干話をさせていただくと、この内川内集落については、現時点において生活道路である集落道路の整備を優先している状況である。今回、高岩神社までの道路整備と神社から海岸まで下りる遊歩道整備ということでご要望があったが、西海岸独特の急傾斜地という現地の状況から工事中あるいは施工後の安全性等を考えたときに、非常に厳しいと考えているので、ご理解いただきたいと思います。								・未着手									
H22	6	長浜	長浜城ノ田地区は、平らな畑の面積も広く、長浜では一番の農地であるが、車の進入ができないこともあって、農耕者が減少し荒地が多くなっているため、城ノ田地区への道路の整備をお願いしたい。	耕地課	農道を市道業師線につなぐことは、工事の問題も含めて大きな課題があり、非常に難しいと思う。ただ、城ノ田地区の2ヘクタールを超える農地を利用していくために、農道を入れることは非常に可能性が高いと思われる。地権者の皆さんと農地利用について、利用の仕方や、あるいはみんなで地域を活性化するための道具として使えるようにご検討いただければありがたいと思う。									農免農道を市道業師線につなぐことに関しては、大きく迂回したり、橋を架けたりする必要があり、非常に工法的に難しい部分がある。また、今後利用策・活用策について具体的な話が出てきたら、地元コミュニティ協議会や地権者の皆さんと農地利用について協議させていただきます。								
H22	7	青瀬	山と川を利用し、子供らが川遊びできる昔ながらの自然な川にもどし、ホテルが飛び舞うようなホテルの里づくり「ボーン山自然公園の整備」を要望したい。	建設整備課	青瀬地区については、現在、瀬尾観音三滝公園への道路整備を進めているところである。従って、瀬尾観音三滝公園の有効活用のための整備とPRに努めることとしたいというふうに考えている。そういったことから今回要望にありましたボーン山自然公園の整備につきましては、現時点においては考えていないので、ご理解いただきたいと思います。									・回答概要のとおり								○